

夏のおぢばへ 子供たちと

こどもおぢばがえり (7/27~8/6) 近づく

少年会本部では、先ごろ今年の「こどもおぢばがえり」の要項を発表した。コロナ禍による中止を経て、今年は4年ぶりにさまざまな行事が開催される。活気の戻った夏のおぢばへ、多くの子供たちをお連れしよう。

今年「こどもおぢばがえり」は、7月27日から8月6日までの11日間にわたって、おぢばで開催される。コロナ禍による中止期間を経て、今年は4年ぶりにさまざまな行事が行われる。「しこみ・ふせこみ行事」と「おたのしみ行事」、「鼓笛お供演奏」などは連日行われるが、プール行事と夜の統一行事は行われない。なお、今年からはインターネットによる事前申込が必要となる。その他従来と異なる点などは公式ホームページ（「こどもおぢばがえり」で検索）を参照のこと。本愛団では、詰所における受け入れの準備を進めている。



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

6月神殿講話より
黒石分教会長
井筒 悟 先生

この地球に生まれた私たちは、この世界の何をどのように味わえばいいのでしょうか。

世界は一つしかありません。同じものを幸せと受け止めるか、不幸と受け止めるかは、すべて自分の心が決めていることです。

すなわち、心が変わるということは、すべての物事

YouTube
続きは
本愛大教会
公式チャンネルへ



井筒 悟 氏
黒石分教会長



※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。本愛誌の読者限定で公開している動画ですので、チャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

の受け止め方が自由になつていうことだとと言えるでしょう。
私は以前、岩手県 of 盛岡というところで布教をしながら、化粧品や健康食品の営業に携わっていたことがあります。顧客には婦人科の病気を患っている方なども多く、「女に生まれてきたことがつらい」と話す方を大勢見ました。
おたすけとは何かを考えるとき、私はこの逆だと思ふのです。「女に生まれて良かったじゃないですか。こうして今私に出会えたのだから」。そんなふうに見方を逆転させるだけで、実際に病気が良くなる方を何人も見てきました。

7月のこよみ	入社祭	1日 午前10時
	少年会縦の伝道講習会	
	1日 入社祭終了後	
	よふき会例会	2日 午前10時
	月次祭	13日 午前10時
	青年会例会	13日 午前10時
	布教実修所	14日 午前10時
	むつみ会例会	16日 午前10時
	ほんあいOKEIKO	16日 午前10時
	こども食堂MOGU	17日 午後5時
	婦人会例会	20日 午前10時
	女子青年例会	22日 午前10時
	本部月次祭	26日 午前9時
	こどもおぢばがえり	27日~8月6日

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

天理教事典によれば、薄い青色の地に

背中から両袖に天の字を染め抜いたものだったようです。

実は私は「ハッピー」が苦手で、以前から必要なとき以外はほとんど着ることがありません。

その後、明治33年に河原町分教会（当時。旧天道会）の系統で用いられたものは、背中に「斯」の字を染め抜いたものでした。このときは河原町の普請で用いられましたが、翌年には天理教校の土持ちひのきしんに、さらに明治38年から



とされます。そのとき人々が着ていたのはどのようなハッピーだったのでしょうか。

天理時報にあるようにお道の信仰者の間でハッピーが着られるようになったのは、秋津大教会の系統の人たちが明治22年に着用してひのきしんをしたのが始まりだ



その後、明治33年に河原町分教会（当時。旧天道会）の系統で用いられたものは、背中に「斯」の字を染め抜いたものでした。このときは河原町の普請で用いられましたが、翌年には天理教校の土持ちひのきしんに、さらに明治38年から

は教祖70年祭活動で後の本島大教会の系統の信者が着用するようになりました。

このとき背中に「天」と「本」の字を入れ、襟には左側に「越之国大教会」「本島布教所」と入れたという記録があります。この時代になって今のお道のハッピーにかなり近づいたと言えるでしょう。

その後明治43年には、現在の本部教祖殿などを普請した「大正普請」が行われ、ハッピーは「労働服」と呼ばれて多くの人が着用したよ

うです。このころまではハッピーのどの部分に何を記載するのか規定はありませんでしたが、昭和2年になって本部会議で統一規定が検討されます。そこで背中に「天理教」と染め抜く現在のハッピーの形が出来上がりました。

戦時中の昭和19年には、天理教校の生徒の服装がそれまでの教服から「ひのき

しん服」つまりハッピーに統一されます。当時は時局柄生徒全員分の教服が入手困難になっていたことから、ここから全教的にハッピーが「制服」としての役割を担うようになっていきます。

このようにして、今に続くハッピー文化がお道の中で形づくられてきた一方で、現在では天理市内で「天理教」と背中にプリントされた黒いTシャツなども販売されるようになってい

ます。天理時報の視点でも触れられていたように、ハッピー姿の人たちがそろってひのきしんしている様子を見て

未信仰の人が感銘を受けることもあれば、「異様だ」と感じる人もいるでしょう。明治時代から続く一つの「文化」を継承していくことも大切ではありますが、新たなあり方を考えるべき

時代にいるのかもしれない。

公式サイトと YouTube をご活用ください！

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想

言わん言えんの理を探る



先月は多くの地域で梅雨入りし雨の降る日が続きました。この先もしばらく雨の季節が続きますが、そんな日々の中では大雨に警戒しながらも、水の恵みに感謝する心を忘れないようにしたいものです。

さて今年も後半に入り、今日までの反省と共に新たな決意を定める旬を迎えました。教祖は「人たすけたら我が身たすかる」と教えられ、自分がたすかりたいと思うなら、人をたすける実行を心がけることを明示されました。これはお道の

信仰で最も肝腎な点です。しかし現実には、なかなか実行できないという場合も少なくありません。その理由の一つは、「人をたすける」ということを形や姿に捉われたり、または最初から大きく考え過ぎてしまうからではないでしょうか。

どんなに名医といわれる人でも、人間の力で病気を治すことはできないし、いかに頭脳明晰でも、人間の知恵で家庭や社会の事情を根本から解決することはできません。つまり「人をたすける」とは、病気や事情を人間の力で解決しようとするのではなく、親神様のお働きに心の焦点を合わせて、解決のご守護がいただけるように誠実を尽くす

す道を教祖は教えられているのです。誠実とは、行いの大小で決まるものではありません。形はささやかであっても、それが精一杯の気持ちならば、親神様は大きく受け取って十分にお働きの姿を見せてくださいます。

■心を外へ向けて

ところで人間には心があり、心は誰にも束縛されず自由に使うことができます。たとえばコップに半分入っている水を見て、ある人は「まだ半分残っている」と喜び、別の人は「もう半分しか残っていない」と悔しがり、時には腹を立てたりもします。この違いはどこからくるのでしょうか。そ

れは心の母体ともいえる「魂」によるものと教祖は教えられました。よく「魂に徳がある」という言い方をしますが、これは「魂に栄養がついている」と言い換えてもいいと思います。つまり栄養がついていると、どんな物を見ても喜ぶことができ、反対に栄養が切れてくると何を

見ても喜ばず、自分中心にしか物事を考えられなくなってしまう。体の栄養なら食物から摂取できますが、魂の栄養は食生活では改善されません。ではどうすればよいのか。それは身近で小さなことでもいいから、自分以外のことで心と体を動かすことです。夫のため妻のため家族のため、また地域のため社会のため、そして親のため教会のため…。このように心を自分以外の、外へ向けて尽くす力が大きければ大きいほど自らの魂に栄養がつい

て、今まで喜ばなかったことも少しずつ喜べるようになり、自分中心から他者中心へと考えが変わり、結果として人だすけの実践となつて、気がつかないうちにたすかる方向へと導かれていく。これが本当のたすかりであります。

世界では未だに戦火が治まらず、苦しむ人が後を絶たないのが現状です。ようぼくは、まずおつとめを勤めて世の治まりを祈り、身近で苦しむ人に一言の声をかけましょう。そして天の与えを喜び、周囲へ心を配つて人のたすかりを願う。これこそが教祖ひながたの道の核心であり、論達第四号にこめられる思召です。今年の後半も、人だすけにしっかりと力を込めて歩んでいきましょう。

【第 103 回】
人をたすける真心こそ
我が身たすかる誠の道

わかるよふむねのうちよ
りしやんせよ 人たすけ
たらわがみたすかる

7月14日

本愛布教実修所の予定

おつとめ、布教実動

教理講座

講師 中島裕信・本昭和

分教会長

「ふしから芽が出る」不妊治療を通して」

5月のおさづけの理拝戴者

村松萌(本心宮)

5月の初席者

大倉巧睦(本一心)

原田修治(本白梅)

会長就任奉告祭

本美幸分教会(大橋善太郎会長)では、6月4日に大教会長夫妻ほか多数の来賓を迎え、二代会長就任奉告祭が賑やかに執り行われた。

本愛大教会

公式ホームページ



をご活用ください!

お出直し

久野僚三氏(本宏部属・本宏津分教会前会長)

6月3日に出直された。

享年86歳。告別式は6月6日、津田豊郎・本宏分教会長を斎主として執り行われた。

本愛大教会 創立110周年記念祭

立教187年
2024年 6月23日(日) 執行

大教会日誌

令和5年5月25日～令和5年6月24日

5月

26日 本部月次祭

13日 月次祭

27～28日 ほんあいキッズキャンプ

祭主・大教会長 扨者・大橋進、松浦道太郎

31日 常任役員会議◇役員会議

指図方・安藤正二郎 賛者・安井篤、中島裕信

6月

◇祭典講話—黒石分教会長・井筒悟先生

1日 入社祭

◇大教会長挨拶

祭主・大教会長 扨者・和光重男、松原悟

青年会例会

指図方・野田正道 賛者・塚原光男、野田正樹

14日 布教実修所

◇祭典講話—青木健裕

16日 むつみ会例会

◇大教会長挨拶

17日 こども食堂MOGU (参加者70人)

2日 よふき会例会

18日 ほんあいOKEIKO (参加者26人)

おつとめ、十二下りてをどり、連絡会

20日 婦人会例会

12日 常任役員会議

24日 女子青年例会